

[082_02-03] 法政研究表紙奥付

<https://hdl.handle.net/2324/1560252>

出版情報：法政研究. 82 (2/3), 2015-12-25. 九州大学法政学会
バージョン：
権利関係：



九州大学教授 八谷まち子 先生

八谷まち子先生は、一九五一年七月に佐賀県でお生まれになった。一九七五年に同志社大学文学部をご卒業になり、国際観光通訳ガイドのお仕事や在日スウェーデン大使館勤務を経て、一九八六年より駐日E.U代表部にお勤めになった。在職中に東京大学大学院法学政治学研究科専修科に進学し、ヨーロッパ国際政治を研究なさった。修士課程修了後、一九九五年に本学大学院法学研究科博士後期課程に進学し、藪野祐三教授の下でE.Uの政治学的研究を継続し、研究者への道を歩まれることになった。一九九八年に本学助手に採用され、講師、助教授などを経て、二〇〇八年に教授に就任なさった。

八谷先生の研究対象はE.Uで、初期の対象領域は、制度形成と運用についてであった。それらの研究は、今日でも日本におけるE.U研究者が、かならず参照するものとなっている。先生は、その後、研究対象をE.Uの拡大をめぐる政治過程にも広げられ、とりわけトルコとE.Uの関係については、日本におけるパイオニアとして位置づけられている。

そのような研究上のご功績を前提に、先生は長く日本E.U学会の理事を務められ、日本のE.U研究の発展にも尽力して来られた。また九州大学を含むコンソーシアムにより、E.U研究会の理事を務められ、日本のE.U研究の発展にも尽力なさった。そして九州大学E.Uセンター長をお務めになり、九州大学を西日本におけるE.U研究の拠点とすべく貢献なさってこられた。

さらに八谷先生のご功績として忘れてはならないのは、教育面を中心とした部局の国際化への貢献だろう。二〇〇〇年に法学研究院留学生教育担当教員として着任されて以来、留学生のケア、学部生・院生の留学送り出しに、情熱と愛情をもって取り組まれてきた。また本部局初のダブルディグリー協定成立のために奔走なさるなど、本学を代表するまでに成長した本部局の英語による教育の実績は、先生の献身なくしてありえなかつたであろう。

以上のような九州大学および本部局に対する多大なるご貢献を踏まえ、先生のご退職にあたり、心から感謝の念と惜別の思いを込め、さらに先生のますますのご健勝とご活躍を祈念し、本記念号を献呈したい。八谷先生、本当に、ありがとうございました。